

富田 武教授年譜及び業績目録

年 譜

- 一九四五年 九月二四日 福島県田村郡宮城村生まれ（疎開先）
一九六四年 三月 私立栄光学園高等学校卒業
一九六五年 四月 東京大学教養学部文科一類入学
一九七一年 三月 東京大学法学部第三類（政治コース）卒業
一九七三年 三月 東京大学大学院社会学研究科国際関係論修士課程修了
一九八一年 三月 東京大学大学院社会学研究科国際関係論博士課程単位取得満期退学
一九八二年 四月 立正大学教養部非常勤講師（政治学）、以降、神奈川大学法学部非常勤講師（比較政治学）、一橋大学社会学部非常勤講師（ロシア社会論）などを歴任
一九八八年 四月 成蹊大学法学部助教就任
一九九一年 四月 成蹊大学法学部教授昇任
一九九二年 三月十二日 在外研修（日本学術振興会、ロシア科学アカデミー歴史研究所）
一九九六年 四月 成蹊大学法学部政治学科主任（一九九八年三月）
一九九七年 十一月 ロシア史研究会委員長（一九九九年十月）
一九九八年 四月 成蹊大学評議員（二〇〇〇年三月）

一九九九年	四月	成蹊大学アジア太平洋研究センター所長（〽二〇〇二年三月）
二〇〇二年	四月	成蹊大学法学部長・大学院法学政治学研究科長（〽二〇〇四年三月）
二〇〇四年	四月	成蹊学園セクシャルハラスメント人権委員会委員長、 成蹊大学公開講座運営委員長（〽二〇〇八年三月）
		成蹊学園評議員（〽二〇一〇年三月）
		財団法人櫻田會審査委員会委員（〽二〇一四年三月）
二〇〇八年	四月	成蹊大学法学会委員長（〽二〇一四年三月）
二〇一〇年	十二月	シベリア抑留研究会代表世話人（現在に至る）
二〇一一年	四月	成蹊大学法学部特別任用教授（〽二〇一四年三月）
二〇一四年	四月	成蹊大学名誉教授

業績目録

一 学術論文

- (1) 「穀物調達とコルホーズ―一九三三年初頭の政策転換に関する一考察―」『歴史学研究』第五〇五号（一九八二年六月）
- (2) 「穀物義務納入制とコルホーズ―飢饉から配給制廃止まで―」『ソヴェト政治秩序の形成過程―一九二〇年代から一九三〇年代へ―』（溪内謙編著、岩波書店、一九八四年三月）
- (3) 「大テロル前夜の政治状況―スターリン憲法の制定過程―」『スターリン時代の国家と社会』（溪内謙・荒田洋編、木鐸社、一九八四年九月）

- (4) 「スターリン批判再考―フルシチョフ改革とソ連社会―」『思想』第七四九号（一九八六年十一月）
- (5) 「MTC政治部とコルホーズ―労働規律問題を中心に―」『スラブ研究』第三五号（一九八八年三月）
- (6) 「ペレストロイカの背景―停滞（ザストイ）の実態と改革の歴史的位置―」『社会主義と現代世界』3（菊地昌典編、山川出版社、一九八九年十一月）
- (7) 「ソ連のスペイン連帯運動と外交政策―世論動員の視点から―」『スペイン内戦と国際政治』（スペイン史学会編、彩流社、一九九〇年一月）
- (8) 「見直されるコミンテルン史」『危機のへ社会主義ソ連』（原暉之・藤本和貴夫編、社会評論社、一九九一年一月）
- (9) 「社会主義の刷新とは何か―ペレストロイカの中のイデオロギー論争―」『成蹊法学』第三三号（一九九一年五月）
- (10) 「ロシア政治への視角」『ユーラシア研究』第一号（一九九三年十月）
- (11) 「三〇年代のソ連」『スラブの歴史（講座スラブの世界③）』（弘文堂、一九九五年七月）
- (12) 「裏切られた革命」と三〇年代ソ連社会―トロツキーの洞察とその限界―」『思想』第八六二号（一九九六年四月）
- (13) 「シヨロホフの謎―一九三二―一九三四年―」『成蹊法学』第四五号（一九九七年三月）
- (14) 「中国国民革命とモスクワ 一九二四―二七年―ロシア公文書館史料を手がかりに―」『成蹊法学』第四九号（一九九九年五月）
- (15) 「スターリンの対日政策―一九三〇年代、新史料から―」『二十世紀世界の誕生―両大戦間の巨人たち―』（下斗米伸夫・五百旗頭真編、情報文化研究所、二〇〇〇年六月）
- (16) 「戦間期のロシア内戦像―スターリン化とその矛盾―」『年報政治学 二〇〇〇』（岩波書店、二〇〇一年一月）
- (17) 「ソヴィエト愛国主義」の起源―一九三〇年代政治史の一断面―」『両大戦間期ロシアの政治と文化の歴史的考察』（文部省科学研究費補助金成果報告書 代表者 磯谷孝 二〇〇一年三月）
- (18) 「コミンテルンと日本共産党―旧ソ連アルヒーフ資料から―」『歴史評論』第六二七号（二〇〇二年七月）

- (19) 「後藤新平訪ソと漁業協約交渉―日ロ史料の比較検討から」『成蹊法学』第六一号(二〇〇五年五月)
- (20) 「一九二九年の日ソ漁業交渉―協約締結後の紛争と国内要因」『ロシア史研究』第七七号(二〇〇五年十二月)
- (21) 「後藤新平と日露協会 一九二〇―一九二九年」『環』第三〇号(二〇〇七年 Summer)
- (22) 「満州事変前後の日ソ漁業交渉 国家統制下の漁区安定化へ」『歴史学研究』第八三四号(二〇〇七年十一月)
- (23) 「荒木貞夫のソ連観とソ連の対日政策」『成蹊法学』第六三三号(二〇〇八年五月)
- (24) 「ソ連の対日諜報活動…ゾルゲ工作以前」『軍事史学』第四四卷第三号(二〇〇八年十二月)
- (25) 「露亜時報』に見るハルビン」『CeBap (セーヴェル)』第二五号(二〇〇九年二月)
- (26) 「帝国主義と国際主義 コミンテルン初期における東アジア連帯の可能性」『季刊 現代の理論』第二五号(二〇一〇年秋)
- (27) “Vtoraia mirovaia volna i Iaponiia: Put' k Aziatsko-Tikhookeanskoi voine i ee zavershainschii etap”, *Partitura Vtoroi mirovoi. Groza na Vostoke*. Moskva, 2010.
- (28) 「第二次世界大戦と日本―開戦・終戦過程の研究史的概観」『成蹊法学』第七三三号(二〇一〇年十二月)(27の邦語・補正版)
- (29) 「ソ連諜報機関エージェント『アメ』の謎」『歴史読本』二〇一一年九月(関東軍全史 満洲事変八〇年)
- (30) Arkhivnye dokumenty o japonskikh voennoplennykh v Sovetskoi Soinuze, 1945-1956 gg. *Sibirskaja ssvlka. Sbornik nauchnykh statei*. Vypusk 6 (18). Irkutsk, 2011. (1-7の譯記)
- (31) 「日米ソ公文書に見るシベリア抑留―研究の現状と課題」『ロシア史研究』第九〇号(二〇一二年六月)(1-7の邦語・補正版)
- (32) 「シベリア抑留の法的・道義的責任―国際法と人道の視点から」『季刊 戦争責任研究』第七八号(二〇一二年冬季号)

- (33) 「新聞報道に見るシベリア抑留―米ソ協調から冷戦へ 一九四五―一九五〇年」『ユーラシア研究』第四八号（二〇一三年五月）

二 学会報告

- (1) 「スターリン批判の政治学」(一九八六年二月ロシア史研究会創立三〇周年記念集会で報告)
- (2) Comintern Reconsidered under Perestroika (IV World Congress for Soviet and East European Studies, July 1990, Harrogate, England)
- (3) 「政治学者の見た党政治局議事録(一九三二―三三)」(一九九三年一月スラブ研究センター冬期研究集会で報告、のち『スラブ研究センター研究報告シリーズ』第四五号に掲載)
- (4) Stalin, Poitburo and Its Commissions in the Soviet Decision-making Process in the 1930s (一九九四年七月スラブ研究センター夏期研究集会で報告) のち *Empire and Society: New Approaches to Russian History*, SRC, 1997 所収)
- (5) 「コミンテルンと日本」(二〇〇一年六月、日本ロシア・東欧研究連絡協議会主催「市民学会 ロシアと日本」)
- (6) 「レーニン、スターリン時代のテロル」(日本学術振興会プロジェクト領域Ⅱ「ジェノサイド研究の展開」、ワークショップ「旧ソ連・東欧における大量弾圧:ジェノサイドか?」二〇〇四年十一月)
- (7) Archival Documents on the Japanese POWs in the Soviet Union, 1945-1956. (二〇一一年七月スラブ研究センター夏期研究集会で報告)
- (8) 「一九二〇年代の日ソ関係」／「シベリア抑留の実態と帰国後の運動」〈日露歴史対話〉淡路島会議報告、二〇一三年十月

三 単行本、編著書

- (1) 『スターリニズムの統治構造―一九三〇年代ソ連の政策決定と国民統合―』岩波書店、一九九六年十二月
- (2) (Pod redaktsiei Bordingova G., Ishii N., Tomita T.) *Nouyi mir istorii Rossii: forum iaponskikh i rossiskikh issledovatelei*, Moskva, AIRO-XX, 2001.
- (3) (Pod red. Adibekova G.M., Vada Kh., Georgieva Iu.V., Tomita T. i dr.) *VKP (b), Komintern i Iaponia 1917-1941*. Moskva, 2001.
- (4) 富田武・李静和編『家族の変容とジェンダー 少子化とグローバル化のなかで』(成蹊大学アジア太平洋研究センター叢書)、日本評論社、二〇〇六年
- (5) 『戦間期の日ソ関係 一九一七―一九三七』岩波書店、二〇一〇年一月
- (6) 編著『コムソモリスク第二収容所 日ソの証言が語るシベリア抑留の実像』東洋書店(ユーラシア・ブックレット第一七八号)、二〇一二年十月
- (7) 『シベリア抑留者たちの戦後 冷戦下の世論と運動一九四五―一九五六年』人文書院、二〇一三年
- (8) 編著『シベリア抑留の実態解明へ―求められる国際交流と官民協力』『アジア太平洋研究』(成蹊大学)第三九号、二〇一四年
- (9) 富田武・和田春樹編訳『資料集 コミンテルンと日本共産党』岩波書店、二〇一四年

四 翻訳

- (1) F・フェヘルほか『欲求に対する独裁―「現存社会主義」の原理的批判―』岩波書店、一九八四年十一月
- (2) E・H・カー『コミンテルンとスペイン内戦』岩波書店、一九八五年十月(のち岩波モダンクラシックス、二〇一〇年十月)

- (3) 監訳・R・W・デイヴィス『ペレストロイカと歴史像の転換』岩波書店、一九九〇年五月
- (4) O・V・フレヴニユーク『スターリンの大テロ―恐怖政治のメカニズムと抵抗の諸相―』岩波書店、一九九八年三月

五 その他

- (1) 書評論文「歴史としてのスターリン時代」(A・アゴステイ、I・ドイッチャー、E・ダンコース、塩川伸明の著作)『週刊読書人』一九八五年七月二二日
- (2) 「社会民主主義か、脱社会主義か ソ連共産党新綱領にみる『体制の選択』」『世界週報』一九九一年八月二〇/二七日
- (3) 「市場・人権なき国家社会主義は終わった ソ連型共産党支配の七〇余年を振り返る」『世界週報』一九九一年九月二四日
- (4) 「進まぬ日露の相互理解」『朝日新聞』一九九二年九月一六日
- (5) 「ロシアにおける史料公開を見る」『新聞研究』第四九四号(一九九二年九月)
- (6) 「モスクワ・アルヒーフ事情」『窓』(ナウカ社)第九二号(一九九五年三月)
- (7) 書評・R・W・デイヴィス『現代ロシアの歴史論争』『図書新聞』一九九八年八月一五日
- (8) 「社会主義」樺山紘一編『新・社会人の基礎知識一〇一』新書館、二〇〇〇年四月
- (9) 「戦前の日本共産党文書が公開」『朝日新聞』二〇〇一年六月二二日
- (10) 「この一冊…溪内謙『現代社会主義の省察』」『季刊 現代の理論』第二号(〇五新春)
- (11) 「モスクワの日ソ国交交渉」(野口通訳メモ解説)『政治記者OB会報』第九〇号(二〇〇五年三月一五日)のち『月刊自由民主』二〇〇五年七月に転載
- (12) 「スターリン批判と日本の左翼知識人 フルシチョフ秘密報告五〇年によせて」『季刊 現代の理論』第九号(〇六秋)

- (13) 「この一冊・小林多喜二『蟹工船』」『季刊 現代の理論』第一七号（〇八秋）
- (14) 「大学闘争四〇年に想う 一当事者の社会運動史的総括」『季刊 現代の理論』第一八号（〇九新春）
- (15) T. Tomita, *Fal'sifitsirovannyi dokument o politike iaponskogo imperializma* (Memorandum Tanaka), *Voprosy istorii*, No.3, 2010 [編集部への手紙「欄への投稿」]
- (16) 講義ノート『政治体制とその変動』概説―歴史政治学へのささやかな試み』『成蹊法学』第七四号（二〇一一年六月）
- (17) 「シベリア抑留問題究明はどこまで―特別措置法を契機にさらに資料発掘・研究が必要」『季刊 現代の理論』第二九号（一一秋）
- (18) 「シベリア抑留の重要論点―責任は誰にあるのか、ソ連は何を得たのか―」『シベリア抑留者支援・記録センター通信』No.1（二〇一二年一月）（二〇一一年十二月〈日露歴史対話〉モスクワ会議における英文ペーパーを改稿したもの）
- (19) 「日露・日ソ関係史」『ロシア史研究案内』（ロシア史研究会編、彩流社、二〇一二年）
- (20) 「シベリア抑留問題入門―何から学んだらよいか」『モスクワで日露関係を学ぶ 川西・モスクワゼミ三ヶ月の記録』（川西重忠編著、桜美林大学北東アジア総合研究所、二〇一三年）
- (21) 「ロシア公文書の開示と利用の現状」『京都大学 大学文書館だより』第二五号（二〇一三年十月）